

仙台大学 広報室

# Monthly Report

～Special thanks to everyone～

This month August marks the 100<sup>th</sup> Anniversary of publication of the Monthly Report.

## Monthly Reportは おかげさまで100号を迎えました。

### 広報室業務レポート

1. 広報業務
  - (1) 広報活動
 

本報室では毎月定例の「広報活動」を通じて、仙台大学について、世の中の人々へ広く知らせたいと考えています。しかし、大学関係者以外の方には、仙台大学について十分な理解が得られていないことが多く、広報活動の重要性が認識されていません。
  - (2) 広報活動
 

仙台大学関係者以外の方には、仙台大学について十分な理解が得られていないことが多く、広報活動の重要性が認識されていません。
  - (3) 広報活動
 

仙台大学関係者以外の方には、仙台大学について十分な理解が得られていないことが多く、広報活動の重要性が認識されていません。
2. イベント
  - (1) トレーニングセンターリニューアル
 

本報室では、トレーニングセンターリニューアルに伴い、仙台大学について、世の中の人々へ広く知らせたいと考えています。
  - (2) 入試
 

本報室では、入試シーズンに合わせて、仙台大学について、世の中の人々へ広く知らせたいと考えています。
  - (3) 仙台大学関係者以外の方には、仙台大学について十分な理解が得られていないことが多く、広報活動の重要性が認識されていません。

### MONTHLY REPORT

1. WHAT'S NEW
  - (1) 11月17日に開催された「仙台大学関係者以外の方には、仙台大学について十分な理解が得られていないことが多く、広報活動の重要性が認識されていません。」
  - (2) 11月17日に開催された「仙台大学関係者以外の方には、仙台大学について十分な理解が得られていないことが多く、広報活動の重要性が認識されていません。」
  - (3) 11月17日に開催された「仙台大学関係者以外の方には、仙台大学について十分な理解が得られていないことが多く、広報活動の重要性が認識されていません。」



<	目次	>
Monthly Reportは おかげさまで100号を迎えました。	1	
海外における安全・危機管理対応 研修会を開催	2	
伊スポーツ教育協会(AISE)で イタリヤ柔道研修	5	
第2回仙台大学心池会練成会を開催	6	
第1回NPO法人日本スポーツ栄養 学会・集会	7	
学生の競技結果	11	



仙台大学に広報室が設置されたのは、平成19年4月のことです。当初は、毎週「広報室業務レポート」を発刊し、学内情報の共有・連携を図ってきました。その後、毎月発刊する「Monthly Report」に名称を変え、できるだけタイムリーに、仙台大学の「今」を伝えられるよう努めて参りました。

「Monthly Report」は、今月号をもって100号を迎えることができました。これも偏に、本学関係者のご支援・ご協力のお陰と心よりお礼申し上げます。

今後も「Monthly Report」は、皆様に親しまれる紙面づくりを心がけたいと思います。  
皆様からのたくさんのご意見・ご感想をお待ちしております。

学生の活躍や、取り組みをご存知でしたら  
広報室までお寄せください。  
Monthly Reportで紹介する他、報道機関  
にも旬な話題を提供していきたいと考えて  
おります。

本誌へのご意見・ご質問等がございま  
したら、広報室までご一報ください。

**広報室**  
直通 0224-55-1802  
内線 佐藤美保 256  
渡辺誠司 271  
土生佐多 200  
Email:kouhou@sendai-u.ac.jp

## オープンキャンパス2014を開催



8月2日（土）、「仙台大学オープンキャンパス2014」を開催しました。多くの高校生・保護者の方にご来場頂き、誠に有難うございました。

オープニングセレモニーでは、在学学生を代表し、ソチ冬季五輪ボブスレー日本代表の黒岩俊喜さん（運動栄養学科3年一神奈川・橘高校出身）、2014大学野球日本代表の熊原健人さん（体育学科3年一宮城・柴田高校出身）、災害ボランティアやデンマークに1年間留学した経験を持つ四釜千尋さん（健康福祉学科4年一宮城・村田高校出身）の3名が高校生に激励の言葉を送りました。また、5学科の体験・紹介コーナーの他に、ミニ講座「保健体育の先生の仕事」、進路紹介「スポーツ選手を支える仕事—体育大学からの進路」、仙台大学とオリンピック・プロスポーツに関する展示などを行ない、本学についてより興味関心を持って頂けるよう努めました。

## 海外における安全・危機管理対応研修会を開催



海外での注意事項や心構えを説明する小松教授  
＝管理研究棟2階大会議室

8月6日（水）、本学管理研究棟2階大会議室で「海外における安全・危機管理対応研修会」（国際交流センター主催）が開催されました。宮城県大河原警察署から講師をお招きし、「海外留学における盗難、薬物、銃刀等に関する注意事項について—その心得と対策—」と題して、近日、留学予定の学生11名に対し、具体的な事例を交えながら「薬物に関すること」・「窃盗に関すること」・「銃刀・強盗に関すること」について注意事項をお話し頂きました。「薬物に関する注意事項」では、「パーティー等で友人から薬物を勧められても毅然と断ること」。「窃盗に関する注意事項」では、「パスポートは自分の身分を証明するもの。偽造され、犯罪に使用される可能性があるので厳重な管理を行なうこと」。

「銃刀・強盗に関する注意事項」では、「1992年ルイジアナ州での日本人留学生射殺事件（ハロウィン事件）を教訓に、言語の違いを十分認識しておくこと。語学力（特に聞く力）は大切であること」等が話され、これから留学する学生たちは、メモを取りながら真剣に話を聞いていました。

また、その他の注意事項として、小松恵一教授（国際交流センター企画委員）より「空港では様々な国の人が行き交うので十分注意すること。若い男性の集団は、互いに高揚し合う傾向があるので、警戒が必要であること」が話され、国際交流センター長の高橋まゆみ教授より「どこの国にも“光と影”があることを認識したうえで、事前に情報収集すること。言葉の壁があることを認識し、良い言葉・悪い言葉にはどのようなものがあるか、事前に調べておいた方がよいこと」等きめ細やかな話がなされ、充実した留学生活が送れるよう期待も込められました。



研修会に参加した

のざわしょうへい  
野澤照平さん（体育学科3年一  
栃木・大田原高校出身）

フィンランドのカヤニ応用科学大学に1年間留学する予定です。自分の言動・行動に注意してトラブルに巻き込まれないようにしたいです。英語力を向上させ、実りある留学にするため、精一杯努力します。

## フィンランド・カヤーニ応用科学大学との共同研究を実施



レストレイターバイクを用いた体験の様子＝仙台大学

8月20日（水）、本学でフィンランド・カヤーニ応用科学大学との共同研究「高齢者等への無理のない健康運動を推進するハード・ソフト両面のノウハウ開発」を実施しました。本学からは、遠藤教授、内野・後藤の両講師が、カヤーニ応用科学大学からは、Veli-Matti、Jonna Kalermoの両研究員が本学近隣の64歳から86歳までの高齢者12名にレストレイターバイク（足こぎ自転車）での運動体験をして頂き、データ収集を行ないました。

この体験では、前面のスクリーンの画面に映し出されたフィンランドの地方都市カヤーニ市内の街並み（仮想空間）を見つつ散策気分を味わいながら、ゲーム感覚でレストレイターバイクを使って体を動かし、楽しく運動しました。

今回の共同研究のねらいは、高齢者の健康や運動機能の維持のために、健康運動等の身体活動を負担に感じることなくゲーム感覚で行なうことができるよう、そのためのソフト（映像開発）とハード（運動マシンシステム）の開発を共同で行ない、これらを活用して、高齢者のリハビリ運動を促し、その運動機能や健康改善効果を両大学で検証するというものです。

今回参加された柴田町槻木在住の男性（81歳）は、「フィンランドの風景を見ながら楽しく運動ができ、今まで感じたことのない新鮮な気持ちになりました。機会があればまた参加してみたいです」と意欲的にお話し下さいました。

カヤーニ共同研究実行委員長の遠藤教授は、「カヤーニ応用科学大学との連携を強めつつ、バーチャルな映像の世界と一体化して楽しく運動を展開し得るプログラム作りにも力を入れていきたい」と今後の展望を話しました。

## 平成26年度学校法人朴沢学園事務職員研修会



仙台発そなえゲームに取り組んでいる様子＝蘭亭

8月11日（月）・12日（火）の1泊2日、秋保温泉・蘭亭（仙台市太白区）で平成26年度学校法人朴沢学園「事務職員研修会」が開催され、法人事務局10名・明成高校13名・仙台大学85名の計108名の理事及び事務職員が参加しました。

朴澤泰治理事長・学事顧問より、研修会の冒頭に、「教員と事務職員は車の両輪である。視野を広く、発想を柔軟にするという趣旨を念頭に置きながら、積極的に参加され、実り多い研修会にしてほしい」と挨拶がありました。

次に、市民協働による地域防災推進実行委員会の庄子健一氏から「仙台発そなえゲーム」（プレイヤーが架空の住民になって、「災害に備えるために、自分や地域に何が必要か・何ができるか」について考えながら実践的に学べる参加型ボードゲーム）が紹介され、各グループに分かれて体験活動を行ない、①モノの備え・②行動の備え・③心の備えの三つの備えについて認識を深めました。

翌日には、長年にわたって我が国の文教行政に携わってこられた経験を持つ菅原正弘事務顧問から「大学を取り巻く諸情勢」等についての講話があり、大学人として必要な知識や心構え等を学びました。また、本学の齋藤まり・柳澤麻里子・松浦里紗の各新助手が、仮設住宅での訪問活動の内容を紹介し、「ながら体操」などのストレッチ体操を行ないました。

二日間にわたり、大変有意義な研修会となりました。

## 美里町社会福祉協議会々長より表彰状を授与



8月10日（日）に「第2回美里町社会福祉大会」が開催され、「社会福祉協力団体」として本学が美里町社会福祉協議会々長より表彰状を授与いただきました。これは、平成23年度から継続してきた被災者への健康支援活動（災害ボランティア）に対して、功績が認められたものです。当日は橋本教授が表彰状を受け取り、齋藤まり・柳澤麻里子・松浦里紗の新助手3名が「気軽にできる健康体操」と題して、来場されていた皆さんと楽しく身体を動かしました。

本学は、平成23年3月11日の東日本大震災の発生直後より、被災地に足を運び、美里町では避難所となった南郷体育館にて、エコノミークラス症候群予防のための運動指導

や、中卒仮設住宅集会所にて廃用症候群予防及びコミュニティの再構築を目的とした「健康づくり茶話会+楽しい運動」の開催など、健康支援活動を行ってきました。中卒仮設住宅は今年5月で閉鎖され、現在は、近くに建設された災害公営住宅中卒上戸団地にて、被災者と地域住民をつなぐ「お茶のみサロン」の支援を行っています。

震災からもうすぐ3年半が経過しようとしていますが、被災地には多くの課題があります。身体面のケアをしていくのが、被災地に立地する体育大学の使命だと考えています。これからもニーズに合わせた活動を続けていきたいです。

< 報 告 : 新助手 齋藤まり >



## 伊スポーツ教育協会 (AISE) でイタリア柔道研修 柔道部平塚礼奈さん ～ 嘉納治五郎先生の「自他共栄」の教えがつなぐ イタリアと日本 柔道の絆 ～



7月17日～7月30日の期間、本学柔道部の平塚礼奈さん（体育学科2年一宮城・石巻商業高校出身）がイタリアスポーツ協会（AISE）（以下AISE）から招待を受け柔道研修に参加しました。

この研修のきっかけは、AISE創設者チェザーレ・バリオーリ氏が東日本大震災で被災した若い世代の柔道家をイタリアへ招きたいと女子柔道オリンピック金メダリスト谷本歩実さんを通じ打診があったことにあります。谷本さんと親交の深い本学の南條和恵監督に声がかかったご縁と、被災地唯一の体育大学であることから本学学生が参加させていただき、今年で4年目となります。高齢だったバリオーリ氏は2012年に亡くなりましたがそれ以後も途切れることなく氏の遺志を引き継ぐ形で研修は継続されています。

平塚さんは国内外を問わず飛行機に乗ったことがなく、初フライトでの海外研修とすべてが貴重な経験になりました。イタリア到着後、バリオーリ氏の奥様の自宅に招かれ、ウェルカムパーティでAISEの皆さんからの歓迎を受け、その後もミラノ市内などのイタリア観光もさせていただきました。合宿所に移動し練習が始まってからは、一日のスケジュールがびっしりと組み立てられ、柔道の立技研究、棒剣道、ランニングなどが行われました。

平塚さんは海外選手と練習するのは初めての経験だったようで、肩部分をつかんで組む独特のスタイルに戸惑いつつも、とても新鮮に感じたと言います。

平塚さんの石巻にある実家は、印刷業を営む自営業でしたが、印刷所兼自宅は震災後の津波ですべて流失してしまいました。現在は仮設住宅に両親と弟が住んでおり、震災の翌年2012年1月に営業を再開し石巻の地で復興のために頑張っているそうです。研修には両親をはじめ、高校2年の弟も喜んで送り出してくれたそうです。

練習後のミーティングでは震災や家族の話をする場面があり、イタリアの方々には皆、彼女の話に耳を傾け、石巻に住む家族が無事だったこと、そして現在も暮らしに不自由をしてないかなど、労りの言葉をかけて下さったそうです。イタリアの柔道家の方々からの優しさに触れた研修となりました。

ひらつか れな  
 平塚 礼奈さん  
 （体育学科2年一宮城・石巻商業高校出身）



なにより柔道を真剣に向き合い、「楽しむ」姿勢が印象的でした。合宿中は、毎日必ず柔道研究の時間が設けられ、例えば、跳腰（はねごし）や小内刈（こうちがり）など日本では取って練習しない技もじっくり研究していました。研修は一日一日が楽しく、内容の濃い時間を過ごすことができました。

英語やイタリア語が話せたらもっと交流が深まったと思うので語学的重要性をあらためて感じる体験でもありました。

イタリア研修を通じ、震災のことを話す機会をつくり、全ての行程において私が淋しくないよう配慮して下さった心遣いにとっても感謝しています。

震災を経験した人間として、AISEの皆さんに恩返しができるようもっと成長していけたらと思っています。



しんちかい

## 第2回 仙台大学心池会練成会を開催



仙台大学剣道部心池会（OB会）が主催する、中学生を対象とした練成会を昨年度から行っています。心池会は、剣道部監督の齋藤浩二先生が一昨年5月2日に、京都で合格率1%の超難関とされる剣道八段審査で見事、昇段されたことを機に設立されました。心池会が設立し、OBとしての活動を積極的に行っていこうということで、まずはOB、OGが監督を務める学校に声をかけ、練成会をしてみようというのが始まりでした。

昨年度の練成会では、埼玉県から2校、県内から4校が参加し、2日間に渡る熱戦を繰り広げました。今年度は県内から7校が参加し、昨年度にも勝る戦いが見られました。練成会後は学生と中学生に稽古をつけたり、学生とOBや、OB同士が稽古をしたりと、昔を思い出しながら良い時間を過ごすことができました。この練成会を通し、OBが何十年ぶりかに顔を合わせたり、十も二十も年上の先輩と共に汗を流し語り合うことができ、OB会の良さを感じました。中学生も県内はもちろん、県外にも剣友ができる良い機会になったと思います。

練成会を運営するにあたり、在學生にもご協力をいただきました。朝早くからの駐車場係りや、案内係り、審判や記録掲示など、積極的に関わってくれたことに感謝しています。剣道界でOBと在學生がこうして運営する練成会は、県内の大学では仙台大学だけです。世代を超えた仙台大学剣道部の「和」を感じました。本当にありがとうございました。

今後の心池会の活動としては、9月27日（土）に行われる東北学連剣友剣道大会に参加。昨年度は50歳以下の部で心池会Bチームが優勝、Aチームが3位でした。女子団体でも心池会Bチームが優勝、Aチームが準優勝という成績を収めました。3月には2年に一度行われる全日本学連剣道大会（岡山県開催）に参加予定。前回大会では、女子団体で並居る強豪を破りベスト8という成績を収めました。

この他にも、在學生のこれからの健闘を称え、全日本学生剣道大会に出場が決まった際には、更なる支援なども予定されています。ぜひ東北大会を制し、全日本学生剣道大会でも優勝を目指し頑張ってくれること期待しています。

最後に、OBと在學生が協力し合い、仙台大学剣道部をさらに盛り上げていきましょう！今後とも在學生及び心池会へのご協力とご支援をよろしく願いいたします。



< 寄稿：仙台大学剣道部心池会  
事務局 三浦 昇  
(平成10年体育学科卒) >

## 第1回 NPO法人日本スポーツ栄養学会・集会



岩田講師の発表の様子

テーマ：栄養士養成課程の学生が行うスポーツ選手の栄養サポート活動に関する研究（第3報）～栄養サポート活動を行う学生に対する指導体制～

連日30度に迫る暑さの中、東京都の早稲田大学早稲田キャンパス並びに東伏見キャンパスにおいてNPO法人日本スポーツ栄養学会総会・学術集会が開催されました。

今大会は『エビデンスに基づくスポーツ栄養学の発展を目指して』をテーマとして開催され、国立スポーツ科学センター（JISS）を始め、早稲田大学スポーツ科学学術院を筆頭に他大学からも多くの研究発表がされました。本大学からは、早川公康准教授、岩田純講師が口頭発表を行いました。

3日間を通して、求められるエビデンスとは何かを見出す「スポーツ選手の栄養アセスメント」、2020年に開催される東京オリンピックを見据えた「学校における食育の推進」、米国スポーツ栄養士による「スポーツ栄養プログラム」など多種多様な観点から報告・発表がされました。そのほか、各企業の展示ブースが設けられ、活気溢れる大会となりました。

本学の、運動栄養学科に設立された運動栄養サポート研究会は今年で12年目を迎えました。今年度より、運動栄養サポート研究会の新制度が始動しており、スポーツ栄養学を取り入れた実践力を養うために必要不可欠な知識・技術向上を図るカリキュラムが新たに組み込まれています。今大会で報告された内容には、運動栄養サポート研究会の発展に必要な情報が数多く報告されていました。

岩田純講師により運動栄養サポート研究会の活動について、前述したように今年度から始動した新制度に関する報告がされ、一研究会として到達目標を確立する重要性を感じました。近い将来のスポーツ界を担う学生アスリートに対して、スポーツ栄養を用いた栄養指導を実践することが出来る研究会としての知識・技術の質が問われてくると感じました。

また、到達目標を設定することで、運動栄養サポート研究会としての目的である「選手の競技力向上に貢献する」そして「将来、栄養士としてスポーツや健康増進の現場で活躍するために役立つ実践経験を積むこと」について追及し、更なる飛躍が求められていると感じました。

今大会は、日本スポーツ栄養学会の最初の大会であり、国外におけるスポーツ栄養について国際シンポジウムとしての研究発表も数多くされました。2020年に東京オリンピック・パラリンピックが開催されることが決定したこともあり、日本の「スポーツ栄養」という分野において、大きな一歩となる大会であったと感じています。

本学からも数名の学生が参加し、他大学や研究機関等で行われている研究についてや日本のスポーツ栄養における課題に理解を深め、多くの刺激を受けていました。

学生の学びの場が学内に留まることなく将来の「スポーツ栄養」を先導する人材となっていくことができるよう、私たち教職員も尽力していく必要があると感じました。

そのためにも、多方面にご活躍されている先生方のお力を借りながら、柔軟な発想や創意工夫が出来るよう精進していきたいと考えています。そして、運動栄養学科のみならず、大学発展に貢献できるよう努めて参ります。

<報告：運動栄養学科 新助手 三品朋子>

## NSCAジャパン南関東地域ディレクターセミナー



7月27日（日）に墨田区の合同会社Universal Strength S&Cフィールド錦糸町において南関東地域ディレクターセミナーを開催いたしました。

今回は、仙台大学ヘッドS&Cコーチ加賀洋平氏を講師に招き「爆発的エクササイズ指導の理論と技術」をテーマに講義ならびに実技講習を実施いたしました。

午前の部では、「ストレングス&コンディショニング」「ウエイトトレーニング」「パワートレーニング」に関して、加賀氏が仙台大学で実施しているトレーニング指導内容の紹介を含めた講義をして頂きました。

近年、日本においてもストレングス&コンディショニングに関する理解が深まりつつありますが、実際には、その歴史や背景を含め真のストレングス&コンディショニングについて十分に理解をしていることは少なく、今回の講義においてストレングス&コンディショニングとは何か？を解説して頂いたことは今後の日本におけるストレングス&コンディショニングの普及に意義深いものになったのではないかと思います。

また、今回のテーマである爆発的エクササイズ、パワートレーニングについては、ウエイトリフティングとプライオメトリクストレーニングの利点、欠点を解説して頂き、プラットフォームの設置環境に乏しい日本の現状と、ほぼ全てのアスリートの競技動作はプライオメトリクストレーニングそのものであることを踏まえた上で、安全かつ効率的、効果的にアスリートのパワーを向上させるために何をすべきかお話ししました。

特に、安全かつ効果的にプライオメトリクストレーニングを実施するためには、十分な筋力、柔軟性を有してなければならないことが強調され、基本的なウエイトトレーニングの重要性を再認識する機会となりました。

午後の部では、爆発的エクササイズを安全かつ効果的に実施するために重要となるのは筋力と柔軟性を向上させることであるという点を踏まえた上で、加賀氏が仙台大学で実施している導入エクササイズであるリバースランジとRDL（ルーマニアンデッドリフト）ならびに上肢エクササイズ、スクワットのエクササイズテクニックの実技講習、各種プライオメトリクストレーニングの解説をして頂きました。

実技講習は、2人ないし3人1組のグループに分かれ、お互いに各エクササイズのエラーテクニックを修正し合うという形で進められましたが、指導対象者のエラーテクニックを的確に見極め、適切なキューイング、フィードバックによって修正させる重要性について理解を深める機会となりました。

今回のセミナーを通して加賀氏からは、我々トレーニング指導者が指導対象者に提供するトレーニングプログラムやエクササイズ指導には、全て理由が存在し「なぜ、そのスタンスなのか」「なぜ、そのフォームなのか」「なぜ、そのトレーニングプログラムなのか」等、「なぜ」なのかを指導対象者に説明出来ることが重要であり、そのために我々トレーニング指導者は、常に知識を深めると共に適切なエクササイズテクニックを身に付けることが重要であると伝えられました。

こうした加賀氏のコメントは、多くの参加者の心に響く言葉になったのではないのでしょうか。

今回のセミナーにご参加頂いた皆様も、ご参加出来なかった皆様も、「なぜ」なのかを説明出来るトレーニング指導者として成長すべく、レベルI検定ならびにレベルアッププログラムを活用し、知識を深め適切なエクササイズテクニックを身に付けるべく研鑽を積んで頂けたらと思います。

＜寄稿：NSCAジャパン南関東  
アシスタント地域ディレクター 野口克彦＞



## スリランカ、コロンボから報告—横川和幸元仙台大学教授



先生も生徒も普段着です。



リレーの練習、裸足です。



教室です。  
(ガラス窓がありません。)



体育の用具入れです。



テーマは「スプリンターの  
トレーニングについて」



ストレッチング



表彰台を使用し  
てのボックス  
トレーニング



腿上げのタイム  
トライアル



全体集合



スリランカ教育省の体育・スポーツ課  
スリヤーニさん(元オリンピック選手)

皆様こんにちは。7月3日にコロンボへ無事到着し1ヶ月が経ちました。(フライト時間は8時間30分、時差は3時間30分です)早速、翌日からJICAの本部で任地派遣前の研修が始まりました。内容は、スリランカの政治・経済状況、社会習慣、社会的階層(カースト制度)、教育制度、宗教と民族対立、占星術(ホロスコープ)に基づく生活、治安対策など多岐に亘るものでした。

その間、教育省(大臣、次官)や日本大使館への表敬訪問、またプライマリースクールの訪問・授業見学も行いました。

未だ見学の段階でコメントするのは控えますが、その印象は日本の体育授業の展開と比較すると驚くことが多々ありました。(映像をご覧ください)また、研修中にカルタラ(コロンボから南へ40km)で陸上競技顧問の先生方を対象にした講習会があり、その中で講義と実技各1時間担当する機会がありました。大学の授業で使用した資料(パワーポイント)を英語に直して何とか伝わったと思います。

(参加者も専門用語は理解できる)実技はジャンプトレーニング(プライオメトリックス・トレーニング)をたくさん紹介しました。しかし、ボックスを使用し  
てのトレーニングは用具がなく表彰台を代用してのトレーニングでした。来週は4日間、スリランカの陸上選抜チーム強化合宿が行われ、コーチングスタッフとして参加します。任地(アヌラダプラ:コロンボから北へ200km)の学校は9月から始まります。活動が始まってから、実際の教育現場でどのようなことが行われているのかご報告したい  
と思います。

<寄稿:スリランカ教育省  
体育・スポーツ課 横川和幸>

## 仙台大学バレーボール 縦の木杯



第33回 仙台大学バレーボール「縦の木杯」大会が、8月23日（土）、24日（日）の両日にわたり、仙台大学第二及び第五体育館において開催された。

この大会は、仙台大学の卒業生が中学校・高等学校において、バレーボール部の卒業生に関わらず、バレーボール部の指導に関わっている方々のチームに声掛けをし、年に一度開催しており、既に33回目という歴史を持っている大会でもある。

33年前のスタート時は高校女子チームがメインであったが、以前本学の女子バレーボール部の指導を行っていた、松本昌三先生が退職された時から新たに中学生女子の部門を設け今回で第16回目の大会となった。また、宍戸勇先生が退職の際に中学生男子の部を設立し今回で第4回目の大会となった。

両日とも気温30度を超える状況の中、体育館の熱気も吹き飛ばすような熱い戦いが各コートで繰り広げられた。

また、仙台大学男子バレーボール部および女子バレーボール部の部員たち大会運営をおこない、準備段階から宿泊の世話や学食での昼食会の世話などを通し多くの事を学ぶ絶好の機会となっている。

男子高校チームの指導者が少ないため、大会は実施されなかったが明成高校男子バレーボール部の生徒たちは、中学男子の大会の補助を手伝ったり、練習の相手をおこなうなどし、明成高校・仙台大学にとっては、生徒・学生募集に関しても有効な大会になっている。

<報告：縦の木会 事務局 川村昭宏>

参加チームならびに試合結果は以下のとおりである。

### ○縦の木会長杯（高校女子の部）12チーム

- ・明成高校・東北生活文化大学高校
- ・石巻好文館高校                      ・宮城第一高校
- ・聖ドミニコ学院高校                ・仙台西高校
- ・名取北高校・村田高校・石巻高校
- ・仙台三桜高校
- ・桜の聖母高校（福島県）
- ・磐城第一高校（福島県）

- 優勝        東北生活文化大学高校  
 第2位      磐城第一高校  
 第3位      仙台三桜高校



高校女子の部優勝の東北生活文化大学高校

### ○松本昌三 杯（中学女子の部）8チーム

- ・名取一中・みどり台中・三条中・七北田中
- ・高崎中    仙台二中    七郷中・鶴ヶ丘中

- 優勝        七北田中学校  
 第2位      みどり台中学校  
 第3位      鶴ヶ丘中、名取一中

### ○宍戸 勇 杯（中学男子の部）7チーム

- ・名取一中・みどり台中・南小泉中
- ・大衡中    高崎中                ・志津川中
- ・円田中

- 優勝        名取第一中学校  
 第2位      南小泉中学校  
 第3位      高崎中学校

## プロ・大学野球交流戦—楽天二軍と引き分け



仙台大学硬式野球部と楽天二軍との交流戦の様子  
＝楽天イーグルス泉練習場

本学硬式野球部は、8月17日（日）「楽天イーグルス泉練習場」（仙台市泉区）で、東北楽天ゴールデンイーグルスの二軍と交流戦を行ない、3－3で引き分けました。

本学の先発投手は、2014大学野球日本代表の熊原健人投手（体育学科3年－宮城・柴田高校出身）。

熊原投手は3回1失点。2番手の影浦雅人投手（体育学科3年－北海道・旭川実業高校出身）が2回無失点と好投。3番手の馬場皐輔投手（体育学科1年－仙台育英学園高校出身）は2回1失点。4番手の野口亮太投手（体育学科4年－群馬・前橋商業高校出身）が2回1失点。4投手がプロ選手を相手に素晴らしい投球を見せました。

本学の得点は、1回表二死1・2塁で5番・薄井新選手（体育学科3年－栃木・矢板中央高校出身）が2点適時2塁打を放ち先制。2－1で迎えた7回表一死2塁で途中出場の7番・千葉俊選手（体育学科2年－岩手・盛岡大学付属高校出身）が中越えタイムリー3塁打を放ち、3点を挙げました。

本学硬式野球部への熱い応援をよろしくお願ひ致します。

## 第41回全日本大学ボート選手権大会—仙台大学が5種目で入賞を果たす



男子舵手なしフォアで3位に入り、表彰式で笑顔を見せる仙台大学の選手たち  
＝戸田ボートコース

8月24日（日）、戸田ボートコース（埼玉県戸田市）で「第41回全日本大学ボート選手権大会」が行なわれ、本学漕艇部が5種目で入賞を果たす活躍を見せました。

男子エイトの順位決定戦は、仙台大学エイトが中央大学、東北大学、富山国際大学を破り5位入賞。男子舵手なしペア決勝では、本学の瀬瑞樹選手（体育学科4年－長崎明誠高校出身）・武田圭司選手（体育学科4年－福井・敦賀工業高校出身）ペアが一橋大学に競り負け、惜しくも2位。

女子シングルスカル決勝は、2013ユニバーシールド女子軽量級ダブルスカル日本代表の中川ひかり選手（体育学科4年－愛媛・宇和島水産高校出身）が力漕するも、惜しくも一歩及ばず2位。田中香加主将（体育学科4年－石川・小松商業高校出身）・松尾恵美選手（運動栄養学科1年－岩手・雫石高校出身）ペアが女子ダブルスカル決勝で3位。男子舵手なしフォア決勝では、仙台大学クルーが3位と健闘しました。

今大会には、運動栄養サポート研究会漕艇部サポートグループの学生4名も帯同し、大会期間中の選手のコンディショニング、疲労軽減・回復のためにサンドウィッチやフルーツの補食、オリジナルドリンクの提供を行い、選手たちを「栄養」の面から支えました。また、本学の阿部芳吉学長・吉田龍哉事務局長及び柴田町ボート協会の皆様約20名も応援に駆け付け、選手たちに大きな声援を送って下さいました。どうも有難うございました。

引き続き、仙台大学漕艇部への温かいご声援を宜しくお願ひ致します。

## ウェイトリフティング部、「第42回東日本大学対抗選手権」— 小川選手と大津選手が共に9位



新人選手権に向け、練習に励む小川選手（右）と大津選手  
=仙台大学ウェイトリフティング練習場（第二グラウンド）

7月5日（土）・6日（日）の二日間、埼玉県スポーツ総合センター（埼玉県上尾市）で「第42回東日本大学対抗ウェイトリフティング選手権」が行なわれました。

本学からは、高校時代に山形県チャンピオンおがわじゅんだった小川純選手（運動栄養学科1年—山形・鶴岡工業高校出身）が69kg級に出場し、スナッチ91キロ・ジャーク106キロ・トータル197キロで9位。高校3年時にインターハイ3位の実績を持つ

おおつきょうすけ大津恭輔選手（体育学科1年—宮城・石巻高校出身）も105kg級に出場し、スナッチ100キロ・ジャーク130キロ・トータル230キロで9位でした。

小川選手は「記録には満足していない。スクワット（脚力）とデットリフト（背筋力）を強化し、9月中旬に行なわれる東日本大学対抗新人選手権では6位入賞を目指したい」。大津選手は「高校時代はスナッチ105キロ・ジャーク136キロ・トータル241キロが自己ベスト。新人選手権では、体幹の強化を図り、自己ベストを更新したい」とそれぞれ今後の目標を話しました。

## 男子ビーチバレーボール部、狩野選手・小山選手ペアがインカレ3位入賞



3位のメダルを掲げて笑顔を見せる狩野選手（左）と小山選手ペア  
=仙台大学

8月8日（金）～8月10日（日）、川崎マリエンビーチバレーコート（神奈川県川崎市）で「第26回全日本ビーチバレーボール大学男女選手権大会」（参加校：22チーム）が開催され、

本学男子ビーチバレーボール部の狩野僚太選手かのうりょうた（体育学科4年—宮城・東北工業高校出身）・小山優選手こやまゆう（体育学科4年—静岡・稲取高校出身）ペアが3位入賞を果たしました。

予選ブロック（1セット）で大阪経済法科大学Bに1-0、東海学園大学に1-0で勝利し、予選ブロックを1位通過。決勝トーナメント（2セット）1回戦では天理大学に2-0で勝ち、準々決勝の国士舘大学Bにも2-0で勝利。準決勝の中京大学に0-2で敗れましたが、3位決定戦の神戸学院大学Aに2-0に勝利し、見事3位を勝ち取りました。

狩野選手は「大学最後のインカレだったので、気分が入りました。3位は嬉しいです」と話し、「東京オリンピック出場を目指して頑張っていきたいです」と今後の抱負を話しました。